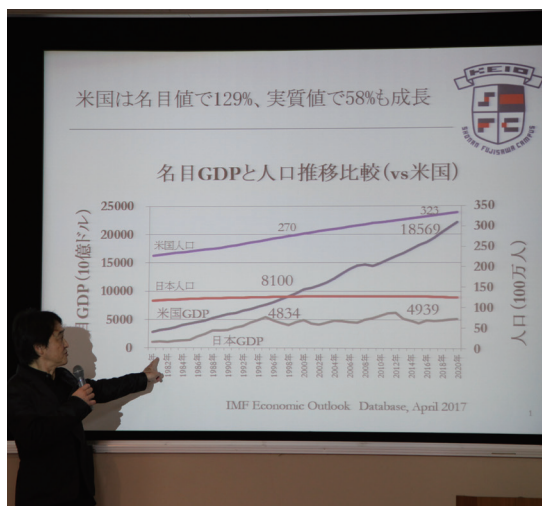


駒木祭講演

100人のエリートより 1人のオタクが活躍する時代



夏野 剛 さん

慶應義塾大学

政策・メディア研究科特別招聘教授

江戸川大学駒木祭2日目、11月3日にメディアコミュニケーション学部情報文化学科主催で夏野剛さんが『ICT革命による日本再生』について講演した。夏野さんは、NTTドコモのiモード立ち上げに携わり、2001年には『ビジネスウィーク』誌の「世界のeビジネスリーダー25人」に選ばれた。現在では、株式会社ドワンゴ取締役、セガサミーホールディングス株式会社社外取締役などを務めている。夏野さんの熱く、個性的な講演をライブ感覚でお届けしよう。(取材・文・撮影: 日高那侑)

ICT革命に 取り残された日本

今から20年前は携帯もPCも、インターネットもなかったんです。そこからICT革命がおこりテクノロジーが進化したんです。WEBサービスとインターネットの検索とかそういうことで、仕事効率が高まりアウトプットが増える。より便利な道具を使っ

て、より短い時間で同じ成果を出しましょう、あるいは同じ時間だったらアウトプットを増やしましょうという、これが生産性を上げるといことです。

仕入れた値段に対して売った値段の差額を付加価値って言います。この付加価値を足したのがGDPです。1996年から2016年まで日本の人口は1%増えていますが、それに対してGDPは2%しか増えていないんです。これだけテクノロジーが発達しているにもかかわらず、一人当りのアウトプットがたいして変わっていないのは、どっかに大きな無駄があると言っています。

アメリカは、この20年間で129%も成長している。ちなみにアメリカは人口が20%増えていますが、この人口ボーナス分を除いても100%成長しています。国民ひとりあたりのアウトプットが倍になっていると言っていますね。でもアメリカという国は残業をしません。みんなささと帰って労働時間が増えているわけではないんです。こんなに差が付いたのはおかしいと思いませんか？

今や日本のGDP成長率はOECD加盟国中32位。先進7か国中6位。でもみなさんが生まれるちょっと前くらいまでは、最上位だったんです。20年間で日本だけが取り残されたんです。そして日本のこれから20年間は人口減少の過程に入ります。人口が減少するとですね、普通にやっていると売上げは下がるので給料が下がるという時代に入ります。だから今までのすべての常識を変えなければならぬんです。

ところが日本だけが、20年前と役職体系が変わっていないんです。つまり年功序列とか終身雇用とか新卒一括採用とか、そんなことをやっているのは先進国で日本だけです。

さらに同じ金の飯30年とかやっているんですね、効率が良くなるわけがありません。それはなぜか、同じ金の飯30年の中の理屈だけで考えるからです。でも、ライバルは金の飯の外に居るのです。

組織の力より 個人の「想像と創造」

効率の革命以外にも検索の革命が起きました。ネット検索ができるようになり、どの会社にも勤務しているか、どの大学を出たのかに関係なくプロになれる時代になりましたよってことを覚えておいてください。

つぎはソーシャル革命。ソーシャルは才能の発見装置なんです。この人こんなことまで知っているんだってTwitterで流れたり、インスタでの子はこんなにセンスがいいんだってわかる。個人の力が発見されやすい環境をSNSは作っているんです。

これにより専門家の定義が変わっていきました。仕事の場合でも、100人のエリートよりも1人のオタクが勝っちゃうような時代になったんです。

なので皆さんには、やっても苦にならないことを見つけてもらいたい。そしてそれをやるべくずっと持っていてください。それが仕事になった時に皆さんは絶対に成功します。

私は一億総オタクになればいいと思っています。日本人は多様性社会じゃないって言われますが、じつは一人ひとりは趣味も違うしやることも感じることも違うんですよ。人種の差よりも個体差の方が大きいんです。

そして二つの「そうぞう」、イマジネーションの想像とクリエイションの創造。これらは、AIにはできないことです。AIは過去のデータを元にデータを出してやるので新しいことはまったく言ってきません。これからの日本を変えるために想像力創造しながら希望を持って挑戦していくべきです。